

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年1月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年1月10日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 134社
- 回収率 67.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より7.3ポイント悪化の▲22.4となった。

2017年9月以来89ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲24.6、当月と比べ2.2ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	先行き見通し 2025年2月～ 2025年4月
業況	▲18.7	▲24.2	▲21.6	▲21.8	▲15.1	▲22.4	▲24.6
売上	▲12.3	▲18.8	▲13.1	▲8.3	▲5.5	▲9.7	▲16.4
採算	▲24.5	▲25.0	▲24.6	▲27.8	▲23.0	▲26.8	▲23.1
仕入単価	▲57.6	▲60.9	▲66.9	▲66.9	▲69.0	▲64.9	▲58.2
販売単価	31.0	27.3	34.7	32.3	41.2	35.9	34.4
従業員	31.7	31.3	31.6	31.6	33.3	34.3	35.8
資金繰り	▲13.0	▲15.6	▲13.1	▲13.5	▲11.2	▲11.9	▲11.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	先行き見通し 2025年2月～ 2025年4月
建設	▲35.5	▲29.0	▲29.0	▲36.3	▲23.3	▲35.5	▲32.3
製造	▲22.8	▲36.7	▲25.0	▲32.2	▲12.9	▲27.3	▲27.3
卸売	3.2	▲3.4	▲15.4	▲10.7	▲3.6	▲10.0	▲13.3
小売	▲21.0	▲16.6	▲16.7	▲15.8	▲10.6	▲27.8	▲33.3
サービス	▲17.4	▲35.0	▲17.4	▲4.6	▲27.7	▲9.1	▲18.2

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・建設需要は価格上限性が高く、資材インフレと官製の人件費増は短中期的に建設業者の業績を大いに悪化させる。ここから2年は体力勝負の持久戦になる。（総合工事） ・新築戸建住宅着工数は引き続き減少傾向にあるが、冬季はもともと需要が少ないため、大きな影響は出ていない。しかし、問題は春先以降の住宅需要。住宅ローン金利や建築コスト(省エネ・ZEH 関連を含む)の上昇、さらには少子高齢化や人口減少に伴う需要の縮小が懸念されている。また、実質賃金が低迷している状況下では、政府による経済対策が重要であり、その効果に大きな期待を寄せています。（設備・その他） ・大工の人手不足感は、事業継続そのものに影響を及ぼし深刻な状況である。既存人材については、休日日数の増加や賃金の増額によるつなぎ止めなど限られたリソースのなかで創意工夫をしているが、新規採用は少子化による労働人口減少のなか、高待遇の企業との競合負けにより苦戦している。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・福袋はリニューアルがうまくいかず全国的に売上減。商品の売上は昨年と比べても遜色なし。（食料品） ・食材費やエネルギーコストの上昇により、国民の消費マインドが冷え込んでいて当社で製作している木製小物品への需要がかなり落ち込んでいることが業績に大きな影響を及ぼしている。政府が賃上げを要求しているが、企業として利益を確保できなければ賃上げを実現することは難しい。（家具・木材） ・冬季に燃料高騰が続き消費マインドが下がってきていると感じる。（金属業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入先メーカーの在庫不足。売上は上昇しているが、仕入単価も上がっている。（繊維・衣服等） ・水産物全般、2024年は全ての商材で値上がりとなった影響で2025年も同じトレンドになると思われ、大きく消費量は減少する見込み。我々水産物卸売業での懸念事項は市中在庫となっている商材価格が下がっていく可能性があり、仕入価格よりも下での販売により差損が発生する危険性を含んでいる。よって消費鈍化により売上高の伸びが鈍化または減少する可能性がある年と言える。（食料品） ・前年度より若干の売上増加だが、経費も増加しているので利益に関しては同等である。（機械鋼材） ・当月の業績は前年同期に比べやや減少に推移。決算はまだ確定していないも、昨年後半は営業担当者の努力により販売実績が好転、経常利益は黒字へと転換している。現在事業計画を策定しているが、管理費は人件費を筆頭に増加見込みも、販売計画は強気にみている。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新年になりウインターセールが1月2日からスタートしたが、来店客は少なく上代から30%のOff率ではなかなか商品は売れない。今後プロパー販売の強化を計っていくしかなく、大変厳しい状況。（衣服身回品） ・政府補助金減額により仕入価格上昇が進んでいる。販売価格への転嫁が急務になっている。（その他） ・例年、初売り効果で1月から売上げが伸びるが、今年は思ったよりも来客が伸びず、今後も決算に向けて厳しい状況が続くと予想している。モノの価格が上昇している昨今、仕入価格・営業費の上昇は致し方ない部分が多く、少しでも費用を抑える努力が必要だと考えている。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド顧客がちらほらと入って一見良好な感じだが、外国の方がいると来なくなる固定客も一定数おり、見極めが重要。また、仕入単価上昇が徐々に来ている。人員は、スキマバイトが多く現場としても攻め切れていない。（理美容・クリーニング） ・売上は増加傾向であるが外注費も増加している。新卒者を計画的に採用し技術承継を進めているが定年退職による人的資源の不足を補えていない現状がある。（その他） ・年末年始はお得意様からのご予約来店と出前が伸びているが、仕入れ単価の上昇により売上は変わらない。スタッフ不足から予約状況に対応できていないのも現状。（飲食） ・冬型の人流移動になるので、安全最優先です。冬型観光やスキー授業等の対応で稼働は高くなるが人員不足が機会ロスになる懸念あり。燃料価格はまだまだ不安定で収支を脅かす。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI8.9 ポイント悪化、採算 DI15.1 ポイント悪化、仕入単価 DI12.2 ポイント改善、販売単価 DI4.1 ポイント悪化、資金 DI3.7 ポイント改善、従業員 DI8.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 12.2 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 7 ポイント、設備・その他 22 ポイント、建築業 13 ポイント悪化となった。資材単価はある程度安定。社員高齢化・人員不足感ありとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI24.0 ポイント悪化、採算 DI10.7 ポイント悪化、仕入単価 DI0.6 ポイント改善、販売単価 DI5.1 ポイント悪化、資金 DI11.9 ポイント悪化、従業員 DI7.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.4 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 27 ポイント改善、食料品横ばい、家具・木材 33 ポイント、金属窯業他 31 ポイント悪化となった。12 月売上増で一安心するも一転して今月は全く動かず、東京の発注先は回復傾向にあるとの話だが動向を見守るとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI0.3 ポイント悪化、採算 DI0.5 ポイント改善、仕入単価 DI2.1 ポイント悪化、販売単価 DI6.9 ポイント悪化、資金 DI10.0 ポイント悪化、従業員 DI4.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.4 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 13 ポイント改善、機械鋼材横ばい、食料品 17 ポイント、その他 29 ポイント悪化となった。灯油の販売価格について、12 月に引続き 1 月も燃料補助縮小に伴い値上げを予定しており、使用数量の減少が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI0.9 ポイント悪化、採算 DI7.6 ポイント悪化、仕入単価 DI6.7 ポイント改善、販売単価 DI13.1 ポイント悪化、資金 DI10.2 ポイント改善、従業員 DI8.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.2 ポイント悪化となった。業種別では、その他 5 ポイント改善、衣料品横ばい、食料品 20 ポイント、自動車 50 ポイント悪化となった。年明け後、消費の落込みが一層強く感じる。前年に比べ客数は若干下回る。加えて 1 人当たり買上点数の落ち込みが大きく、エネルギー関連の補助減等が生活防衛意識を高めているのではとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI19.7 ポイント改善、採算 DI16.6 ポイント改善、仕入単価 DI3.1 ポイント改善、販売単価 DI3.1 ポイント改善、資金 DI14.1 ポイント改善、従業員 DI3.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 18.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、整備業 25 ポイント悪化、飲食横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、ホテル・旅館 25 ポイント、その他 20 ポイント、運送 50 ポイント改善となった。原材料やエネルギー費の上昇が重荷になっているとの声も寄せられている。</p>